

目次

1. 回答者数とその内訳.....	1
2. 学生の集中や理解を促す取り組み、それらの取り組みの成果についての自己評価 (主なもの)	3
3. 今後必要であると考えている取り組み (主なもの)	8
4. 学生による授業アンケートが自身の取り組みの振り返りに役立っているか	9
5. 学生による授業アンケートに関する要望 (主なもの)	11

要約

・専任教員と非常勤講師を合わせて 128 名が回答した。前学期に比べて、回答者数は 14 名減少した。減少した 14 名のうち 11 名は非常勤講師であった。

・学生の集中や理解を促す取り組みとしては、教材に関するもの、授業の実施方法に関するもの（伝統的な手法と非伝統的な手法）、学生の特性に応じたもの（留学生や消極的な学生への対応）、定期試験に関するものがある。特にアクティブラーニング手法の採用を挙げる者が多かった（21 名）。

・今後必要な取り組みとしては、学力に応じた語学のクラス分け、ティーチングアシスタントの利用、再履修学生の動機付け、入試の段階における学生の選別などが挙げられている。

・授業アンケートが役に立っているかという質問には、70%ほどの者が役に立っていると回答した。その理由としては、学生の学習態度や学習習慣を把握できる、学生の特性・ニーズ・要望を把握できる、学生の理解度を把握できる、自身の取り組みに対する学生の意見や感想を把握できるなどが挙げられていた。

・学生による授業アンケートに関する要望としては、実施方法に関するもの、集計方法に関するもの、報告方法に関するものがあった。特に、実施方法に関するものが多く、アンケートを実施する時期と期間、回答者数を増やす策、アンケートを補助するインタビュー、科目ごとにオリジナルの質問を追加できる柔軟性などについて要望があった。

1. 回答者数とその内訳

●学部別の回答者数

	2019年・春	2019年・秋	増減
経済学部	35	35	0
社会学部	38	34	-4
流通情報学部	24	19	-5
法学部	19	20	1
スポーツ健康学部	23	19	-4
不明	3	1	-2
	142	128	-14

●身分別の回答者数

専任教員	74	57.8%
非常勤講師	54	42.2%
	128	100.0%

●専任教員の回答者数（学部別）

	2019年・春	2019年・秋	増減
経済学部	17	20	3
社会学部	17	18	1
流通情報学部	15	12	-3
法学部	12	9	-3
スポーツ健康学部	16	15	-1
不明	0	0	0
	77	74	-3

●非常勤講師の回答者数（学部別）

	2019年・春	2019年・秋	増減
経済学部	18	15	-3
社会学部	21	16	-5
流通情報学部	9	7	-2
法学部	7	11	4
スポーツ健康学部	7	4	-3
不明	3	1	-2
	65	54	-11

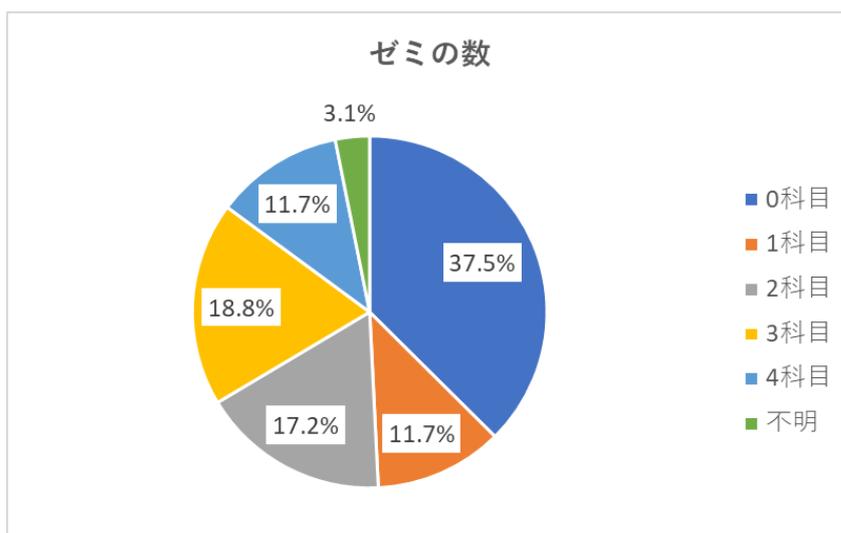
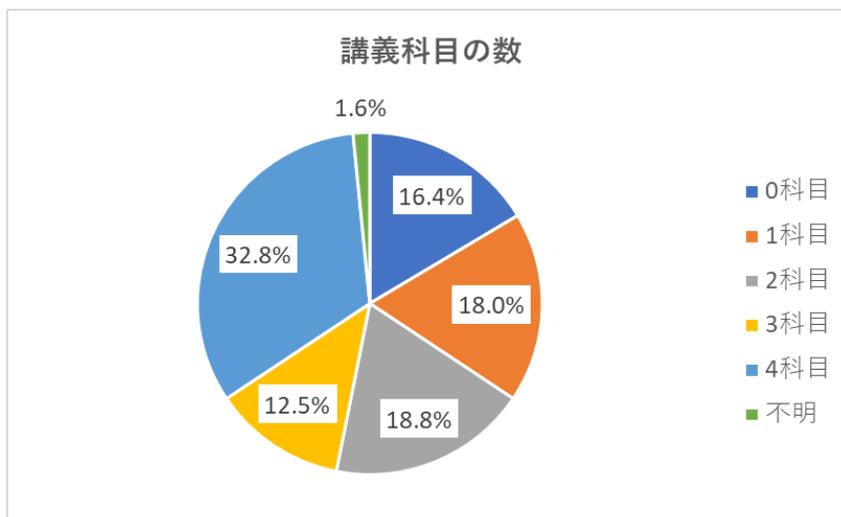
●科目区分別の回答者数

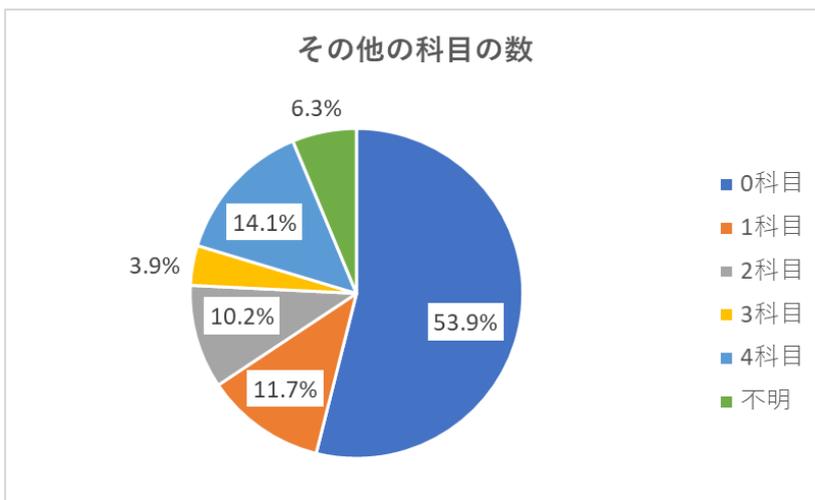
専門科目	75	58.6%
教養科目	53	41.4%
	128	100.0%

●経験年数別の回答者数

1年未満	21	16.4%
1年以上3年未満	19	14.8%
3年以上	87	68.0%
不明	1	0.8%
	128	100.0%

ひとりの教員が担当している科目の数





2. 学生の集中や理解を促す取り組み、それらの取り組みの成果についての自己評価（主なもの）

●**教材を作成し manaba にアップロードする**

・教科書の内容をパワーポイントの資料にまとめ、授業の進行に合わせて提示した。リスニングの練習ができるように、オーディオ・ファイルも公開した（流通情報・非常勤・教養）。

●**ビデオや写真などの視聴覚教材を利用する**

・ビデオや Youtube の動画を随時織り込んで、集中力の保持や理解の助けになるようにした。講義をしているときに較べて集中して見ている学生の数明らかに増加していたので、一定の効果があったと考える（経済・専任・教養）。

・講義の補助として写真集を活用し、視覚によって授業内容が理解できるよう試みた（社会・専任）。

・ニュースなどのビデオを用いた（法・専任）。

・写真や映像を多く使用して、学生の理解の助けとなるようにしている（スポ健・専任・教養）。

●**アクティブラーニングの手法を用いる**

・教職実践演習でロールプレイを取り入れた。学級経営の模擬体験ができたこと、学生に好評だった（経済・専任・教養）。

・ほぼ毎回の授業で、必ず誰かほかの受講生とグループもしくはペアを組んで、あるテーマについてディスカッションしてもらい、その結果をクラスで発表してもらった。授業アンケートの結果を見る限り、非常に好評であった。学生はほぼ誰も眠りに落ちず、グループメンバーと協同して課題に取り組む様子がうかがえた。留学生が多く受講する中で、クラスメートと話すことも一種の異文化体験といえ、自由記述からも学生が多くの学びを得られたと思われる（社会・専任・専門）。

・ゼミにおいては、KJ法、ブレインストーミング、グループワーク、ディベートなど、様々な手法を用いた。学生が主体的に意見を発表するような雰囲気が生まれたと思う（社会・専任・専門）。

・講義科目ではあったが、毎回レポート課題を出し、グループでの討論・まとめ・発表とそれらへのコメントをおこなった。レポートは、次の授業で赤入れして全員に返却した。グループのメンバー構成は毎回異なり、たくさんの学生が互いに知り合い、役割を交代して演じられるようにした。しかし、回を重ねるにつれて、グループ内でまとめや発表をする学生が固定化してしまった。もともとの興味・関心の強弱が影響したと思われる（社会・専任・専門）。

・実習を想定して、模擬保育(手遊び・運動遊び指導)を多く取り入れた。グループディスカッション、発表を行うようにした（社会・非常勤・専門）。

・いくつかの心理学実験を実施し、実験結果を学生に解析させ、それをレポートとして報告させた。提出されたレポートは添削して学生一人一人にフィードバックした（社会・非常勤・教養）。

・毎回指定席の座席表を準備し、メンバーの組み合わせを変えている。（ただし、日本語のコミュニケーションが難しい留学生の場合のみ、同じ運動部所属の日本人学生にフォローを依頼している。）毎回初対面のメンバーと話すことに積極的に取り組めた学生からは、コミュニケーション能力が高められたとの感想があった。一方、気後れしたりワークに消極的、非協力的な学生もいるのは課題である。挙手して自主的に発表できる学生の顔ぶれは決まっている（社会・非常勤・教養）。

・数名でのグループで行う課題を与え、グループ全員が課題に取り組まなければならない環境を作った。時間内に課題を終わらせなければならないこと、グループの他の学生と協力して取り組まなければならないことで、普段は消極的な学生も、進んで活動に参加するようになっていた（流通情報・非常勤・教養）。

●資料の穴埋めをさせる。プレゼンテーションと板書を併用する

・パワーポイントや書画カメラを使って、事前に manaba で公開したレジюмеや資料の空欄に書き込ませる形で、講義を行った（経済・専任・専門）。

・本学の学生には、話した内容から必要事項を取捨選択してノートテイクするのが難しいレベルの者が多数いると感じていたので、板書を多く行った。ノートを取るという作業をさせることで、集中しやすい状態になった。（社会・専任・専門）。

・スライド資料は配布しない。とにかくノートに書かせる。ノートに書かないとレポートが書けないようにしている。そのかわり、書かせる内容は厳選して最小限にする。書く時間を授業中に十分与える（社会・専任・専門）。

●時事問題、文化的背景、具体例や実践例、自身の研究成果などを紹介する

・日常生活に見える様々の化学現象とその発見者達の人生伝説も講義に取り入れたことで、学生たちが興味をもって聞いてくれた（経済・専任・教養）。

- ・授業の冒頭に、最近の金融・資本市場の動向を、カレントトピックとして紹介した。多少なりとも身近な事象と感じてくれたかと思う（経済・非常勤・専門）。
- ・単に英会話を教えるだけでなく、英語を話す人々の文化や風習なども教えた（経済・非常勤・教養）。
- ・語学科目を担当している。その言語圏の歴史、文化などについても幅広く言及するように、心がけた（社会・非常勤・教養）。
- ・留学生に日本の生活や文化に対する理解を促すために、パワーポイントを使ってテキストの内容を説明した。カルタや相撲ゲームなど、日本の伝統文化が体験できるように工夫した（社会・非常勤・教養）。
- ・講義科目では世の中の最新事例や自分の研究成果も紹介するようにした（流通情報・専任・専門）。
- ・法学は言葉の学問だが、可能な限り具体的な事例を挙げて説明したり、関連する実物の画像を見せたりするなどして、学生が法の内容をイメージしやすいようにした。具体例の説明の時や画像を見る時は、皆顔を上げて教員の方を向いているので、集中を促す効果はあると思われる（法・専任・専門）。

●教室を歩き回る

- ・学生の習熟度に差があるため、演習時間に机間巡視をしながら学生に対してフォローを行っている。ある程度の成果は出ていると思われる（経済・非常勤・教養）。
- ・200人超の履修者のいる授業において、常に教卓で講義をするのではなく、学生の席の間を巡回し、質問をしたり意見を求めたりし、理解度を確認した（社会・専任・専門）。
- ・スマートフォンによる出欠をとるようになってから、授業中いつもスマートフォンに目を向け手放せない学生が多くいる。授業中は、学生の席に行き、質問をするようにしている。これによって、学生の緊張感が高まり、集中して聞くようになった（社会・専任・専門）。
- ・学生一人一人とコミュニケーションが取れるよう、常に教室内を動きながら授業するようにしている（流通情報・専任・教養）。

●授業中に学生に問いかける

- ・講義形式の授業であっても、積極的に学生に問いかけた。寝ている学生が減った（経済・専任・専門）。
- ・受講生が少なかったため、授業中に学生を指して発言させ、理解を徹底・確認するなどの作業を行った。学生の集中や理解を促すのは、大人数のクラスよりも容易であった。意欲のある学生に対しては講義内容を確実に理解させ、また各自の考察を深めさせることができたと思われる。また、必ずしも意欲があるわけではない学生に対しても、最低限の知識の伝達はできたように思われた。ただし、それらが試験の答案に表れたかということと必ずしもそうでなかった（法・非常勤・教養）。

●SNSを利用する

- ・自主学習を進められるように、SNSで情報発信を毎週行った（経済・非常勤・専門）。

●宿題レポートなどを毎回もしくは頻繁に提出させる

・講義科目では、毎回予習・復習の課題を課した。毎週 A4 用紙 1 枚で、4 点満点で採点し、平常点とした。毎週課題があるために、30 分から 1 時間程度のホームワークをする学生がある程度いた（社会・専任）。

・講義科目では、事前に宿題を課し、授業ではその周囲から解説し始めている（スポ健・専任・専門）。

●小テストを毎回もしくは頻繁に実施する

・定期的に小テストを行い、高得点者を公開した。頑張ろうとする学生が増え、質問討議が多くなった（経済・専任・教養）。

・講義形式の授業においては、毎回冒頭 15 分~20 分を、穴埋め式の問題 10~15 問で構成されている復習ドリルの実施にあてた。また、予告された回に、二肢択一方式の問題 15 問で構成されている小テストを 3~4 回実施した（経済・専任・専門）。

・毎回復習テストを実施して回収し、採点を行い次の授業に返却と解説を行う。その後、講義を行うことで復習しながらの講義となるので学生にとって理解しやすいのではないかと考える（経済・非常勤・専門）。

・3 回に 1 回程度、授業中に小テストを行い、翌日にフィードバックをした。授業の理解度が高まり、期末テストの点数も小テストを実施しなかった年度より高くなった（社会・専任・専門）。

●リアクションペーパーを毎回あるいは頻繁に書かせる

・授業の最後に、その回に扱われたものの中で最も重要だと思ったことをリアクションペーパーに書いて提出してもらった。学生の理解度の把握ができ、次回の講義で理解の弱い部分の補足説明ができた（社会・専任・専門）。

・コメントシートに自分の感想や意見を書かせる。時間を十分にとる。翌週、いくつかを匿名で紹介し、さらに発展的な説明や事例紹介を加える（社会・専任・専門）。

・リアクションペーパーに書き出した回答のうち、興味深いものは翌週に講義内で取り上げ、リプライをつけるようにしている。口頭で答えを述べさせるよりは、リアクションペーパーを用いるほうが、プレッシャーが少ないのか、反応が良いように思われる。また、翌週に取り上げることで、学生同士で刺激を与え合っているように見える（法・専任・教養）。

●C-learning や manaba を用いて、授業中にアンケートを行う

・授業中に小テストを行い、答え合わせ後に、アンケート機能を使用して、理解度の確認を行った（経済・専任・教養）。

・学期の途中で学生による授業アンケートを独自に実施し、学生から指摘された点(授業進度が速いなど)を改善した（社会・専任・専門）。

・講義科目では、C-learning のアンケート機能を用いて小テスト、理解度の把握、講義の振り返り等を行った。理解度をリアルタイムで共有することができ、理解の促進にいかされたと考える（流通情報・専任・専門）。

・ゼミでディベートを実施し、C-learning のアンケート機能を用いて学生によるジャッジを行った（流通情報・専任・専門）。

・講義科目では、受講生の理解度を確認するために、時々講義を中断して、アンケート機能を活用し、簡単な質問を出して受講生に回答を求めている。受講生の集中力向上にも一定の効果があったと考えている（法・専任・専門）。

●ひとつの授業を意識的に構造化する

・1回の講義の中で、小さなトピックをいくつか扱うような構成にしている。1つのトピックにつき1回は、学生が自分の答えを用意し、書きだす時間を作る（法・専任・専門）。

●個人に期待する行動や集団としての規範を明示する

・講義中の雰囲気やダレないように、受講にあたっての態度をルール化した（経済・非常勤・専門）。

・私語を厳しく注意するだけでなく、なぜ私語を禁止するのかを懇切丁寧に解説した。うるさいと学生に言われるまで、説明し続けた。結果として、200人超のクラスでも静かな環境を整えることができた。ただし、机の下で携帯をいじり、ゲームに興じていた学生も見られた（社会・専任・専門）。

●キャンパス外における活動を実施したり、勧めたりする

・ゼミについては、学外活動を充実させた。NHK のスタジオを訪れて J リーグタイムの番組制作の様子を見たり、大相撲初場所で力士の支度部屋まで行ったり、サッカーの中田英寿氏のマネージメントを独占的に担っていたサニーサイドアップ社を訪問したりした。しかし、これら学外活動の意味が学生にはよくわかっておらず、一般の人ではおそらく一生体験できないことだと就職活動のエントリーシートを書く時に初めて気づいた様子だった（スポ健・専任・専門）。

●消極的な学生に特別な配慮をする

・講義中の発言に及び腰な学生のために、manaba を使って 1to1 のコミュニケーションをしている（経済・非常勤・専門）。

・C-learning のクイックアンケートを利用し、手を挙げにくい学生からの意見や質問を受け付けるよう工夫した（社会・専任・専門）。

・話したり、説明したりするのが苦手な学生にも、意見のしやすい雰囲気づくりを心掛けた（スポ健・非常勤・専門）。

・C-learning のアンケート機能を駆使して、全員からネット上で意見を出し、授業を展開した。人の後ろに隠れるような学生も、アンケートに意見を出すように促した。ほぼ全員が、毎回意見を出して、ディスカッションできるようになった（スポ健・専任・専門）。

●留学生に特別な配慮をする

- ・履修者の約 4 分の 1 が留学生であるため、パワーポイントの資料に英語の図表を多く加えた（経済・専任・教養）。
- ・留学生の出身国の美術にも触れ、関心を持てるように工夫した（経済・専任・教養）。
- ・留学生のコメントペーパーはできるだけ、漢字や文章表現などのチェックを行って返却した。真面目な留学生の場合は、文章表現力が少し上がった。ずっと、ネット上の文章のコピペのままの学生もいた（社会・専任・専門）。
- ・留学生については、同じ国の学生が同グループにならないようにした（流通情報・非常勤・教養）。
- ・留学生に対しては、授業の前後で積極的に話し掛け、講義に対する要望を聞きだし、講義中の理解できない点を説明するなどの工夫をしている。言語の壁のせいで、留学生は引っ込み思案になりやすい傾向があり、その改善には、本人の努力以外に、教員による積極的なアプローチが有効であると確認した（法・専任・専門）。
- ・留学生を配慮して難しい漢字にはフリガナを付けている（流通情報・専任・教養）。
- ・日本語の不自由な留学生のために、英語と（彼らの母国語の）韓国語で別途課題を作り、それに回答することで出席点とした（スポ健・専任・専門）。

●剽窃が起こりにくいような課題を出す

- ・留学生対象の講義形式の授業の課題で、インタビューで資料を収集してレポートを書かせる課題を課した。コピー&ペーストが減り、学生のオリジナリティーの高いレポートが増えた（流通情報・専任・専門）。

●定期試験の前に出題範囲をまとめた資料を配付したり、問題形式に慣れさせるための特別な試験を実施したりする

- ・試験に向けて試験と似た形式の問題を最終回の講義で解説するようにしている。また重点的に出題する範囲を示し、出題している（経済・非常勤・教養）。

3. 今後必要であると考えている取り組み

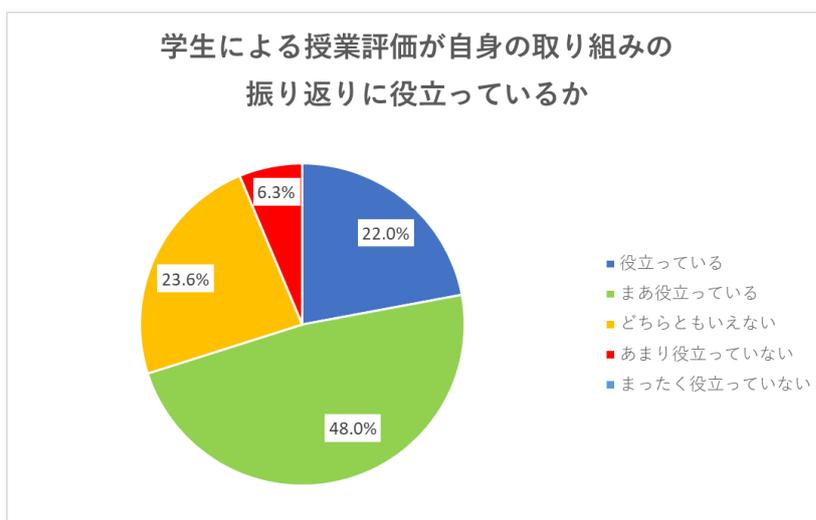
- ・受講人数が多いため、ティーチングアシスタントなどのサポートがあると学生に対してのフォローがしやすいと思われる。（経済・非常勤・教養）。
- ・英語の授業ではレベルに応じたクラス分けが必要だと考える。アンケート結果の平均値があまり芳しくなかったのは、英語レベルの分散が大きすぎるためであると思われる。ほぼ問題なく英語でコミュニケーションできる学生もいれば、アルファベットさえも読めないという学生もいる。このようもスキルの分散が大きい状況で、授業をさらに良くするというのは無理な話である。1年生からの授業のクラス分けといったドラスティックな改善を要求する。特に英語ができる1年生にとっては、1年間その授業を受け続けることが無駄にもなり得る（社会・専任・専門）。

・再履修の学生に出席を促すのは大変難しい。小テストを重視し、欠席や遅刻が多いと小テストを受けられないぶん単位取得が困難になることを伝える必要があるし、そうしてきたが、なかなか伝わっていないようだ（社会・非常勤・教養）。

・入試の段階で、何を目的として何を学びたいかということが明確な学生を見極める（スポ健・専任・専門）。

4. 学生による授業アンケートが自身の取り組みの振り返りに役立っているか

	人数	割合
役立っている	28	22.0%
まあ役立っている	61	48.0%
どちらともいえない	30	23.6%
あまり役立っていない	8	6.3%
まったく役立っていない	0	0.0%
	127	100.0%



(1) 役立っていると思う理由（主なもの）

●学生の学習態度や学習習慣を把握できる

・学生の学習についての取り組みの変化や学習状況がだいたいわかる（経済・非常勤・専門）。

・自習の習慣がないことが明らかになり、それが学習成果にもつながっていることを確認した（社会・非常勤・教養）。

●学生の特性、ニーズ、要望を把握できる

・龍ヶ崎キャンパスと新松戸キャンパスでは、同じ科目で同じ教材で実施しても、学生の評価がかなり異なっている（学生の満足度も異なっていると思われる）。それらは、受講する学生の属性や環境・学びが影響するものと考え、今後の授業立案において考慮する材料になっている（社会・専任・専門）。

・年度によって学生の気質も異なり、講義の在り方を考える上で大変役立つ（法・非常勤・専門）。

・対面では、伝えづらいこともあるかと思う。アンケートを通じて学生の本音に触れられることは、双方向の学びを深める大変良い取り組みである（スポ健・非常勤・専門）。

●学生の理解度を把握できる

・アンケートの自由記述欄で、ワークの趣旨が伝わっていないことが分かったので、次年度以降は、ワーク後の振り返りの時間を多く取る必要性を痛感した（経済・専任・専門）。

●自身の取り組みに対する学生の評価を把握できる

・アンケート調査の結果は、授業に対して受講生の目線から客観的に評価がなされており、自分自身の授業の振り返りに大いに役立っている。受講生の評価を率直に受け止めて、次期の授業に役立てたいと思っている（社会・専任・専門）。

(2) 役立っていないと思う理由（主なもの）

●回答者数の少なさ、サンプルの特性（真面目に出席しなかった者が回答者に含まれている）、サンプル・セレクション・バイアスなどによって、信頼性に問題がある

・真面目な学生の方がアンケートの回答率が高いので偏っている。真面目でない学生はアンケートをあまり出さないが、講義の改善に役立つと思うので真面目に受けない学生の意見も聞いてみたい（経済・非常勤・専門）。

・回答してくれた学生数が少ない。授業中に時間をとってその場で回答する形をとらなかったものでそうってしまったと思う（社会・専任・専門）。

・講義ひとつひとつに対して授業アンケートがあり、回答しなくてはならない数が多いため、学生の回答はいいかげんなものが多い。自由記述の場合は回答が少ないため、講義のどの部分が良くて、どの部分が悪いのか、よくわからない（法・専任・教養）。

・勉強意欲がある学生とそうでない学生の意見が混在しており、判断がしづらい（流通情報・専任・専門）。

●求めている情報が得られなかった

・記述式ではないため、具体的にどのように対策すべきかがわからない（経済・専任・専門）。

・授業の質をもう一段上げるためには、学生の意見を聞くだけでは足りないと感じている。他の、できれば複数の教員による、ピア・レビューが必要だと思う（経済・専任・専門）。

5. 学生による授業アンケートに関する要望（主なもの）

（1）実施方法に関するもの

- ・アンケートのための期間がもう少し長い方がよい（経済・専任・教養）。
- ・授業アンケートを紙で行っていた時と比べて、実施することを忘れてしまいがちである。今さら紙に戻すことは難しいと思うが、実施忘れ防止策をなにか講じていただけると助かる。例えば、実施期間中、各教室の前のホワイトボードに掲示を貼るなど（経済・専任・教養）。
- ・アンケート実施中に教員が同じ部屋にいてもよいのだろうか。他の大学ではアンケート実施中は教員は教室を出て、学生だけの空間を作るのは一般的と思われるが、本大学ではそのような指示はなかったと思う。これで果たして学生が冷静かつ客観的な判断がくだせるのか疑問である（社会・専任・専門）。
- ・自由記述欄への記入を必須とするなど、単なる選択肢以外の項目を充実させてほしい（流通情報・非常勤・専門）。
- ・manabaでの回答方式になってから、学生の回答率は下がっていませんか。学生がアンケートを入力するメリットがあると思ってもらうためにはどうしたらよいのか、気になっている。授業改善に役立っていることを、もっと伝えてはどうか（社会・専任・専門）。
- ・もう少しアンケート結果を増やすために、講義時間に、紙で強制的にアンケートに答えさせたほうがいいのではないのでしょうか。スマホ入力では限界がある（法・専任・教養）。
- ・担当教員が学生の回答状況を確認できるようにしていただければ、回答率を上げることができるのではないかと（スポ健・専任・専門）。
- ・可能ならば、ネガティブな回答をした学生と話をしたい。回答には表れない何か(考え)があると思うので（社会・専任・専門）。
- ・アンケートの他に、学生から直接的に聞き取りをしてもよいのではないかと（スポ健・専任・教養）。
- ・一番おもしろかったワーク内容や、どんな能力が伸びたと思うかという測定項目が欲しい（経済・専門・非常勤）。
- ・学生が要望を記述できる欄がほしい（法・非常勤・専門）。

（2）集計方法に関するもの

- ・本学全体または学部ごとの結果の総括など、まとまった情報が開示されると、本学の課題が共有され、改善に向けた議論にもつながるのではないかと（経済・専任・専門）。

（3）報告方法に関するもの

- ・科目ごとに結果をまとめたPDFファイルには自由記述の回答が表示されていない。自由記述の回答だけを取り出して、見やすくまとめてもらえないだろうか（社会・専任・専門）。

以上